

木工研究会講習会「ルーター講習会」

開催日時:2014年10月12日(日) 午後1時~5時

会場:小諸市 谷工房

参加者:25名(岡田、大橋、浅村、松山、小林、太田、小松、蛭川、狐崎、
谷、須藤、他14名)

報告者:須藤崇文

講師:丹野則雄氏

テーマ:「~考える事・作る事~アイデアをかたちにするために」

ゲスト:須田賢司氏

今回、信州に北海道の丹野さんをお招きし、谷進一郎氏の工房にて「ルーター講習会」が行われました。参加者は関係者を含め25名が講演を聞きました。

丹野さんは、工房「クラフト&デザイン タンノ」を構えられ、カードケースなどのシンプルなデザインでありながら機能的な作品を多く手掛けられています。

30数年間木工のお仕事をされるなか、木製箱の可動部分に大変にこだわりがあり、そのデザインや機能には素人はもちろん、木工のプロでも感心してしまう精密な加工に参加者は興味津々でした。

工房での谷さんの挨拶のあと、続いて丹野さんの経歴も含めてスライドショーが始まりましたが、出だしがビールメーカーのキャッチコピーを引き合いに作り手はあまりしゃべらない方がいいのではと話出しましたから、もうたまりません。数年前に知人に頼まれた初の講演会で緊張もある中、思いのほか楽しかったそうで、その時に目覚められたそうです。すぐに英語バージョンを作り2010年2月にスウェーデン・ストックホルムの工芸学校でも講演されたそうです。

さて若い頃に家具デザイナーを目指された丹野さんは、デザイン学校卒業後に家具メーカーに勤められたそうですが、思うようなデザインが出来ずに悩まれ、物作りが出来ればデザインも出来るのではないかと思ったそうです。

その後、北欧では「デザイナー」は「職人」でもあるという考え方をしり、1980年に独立し工房を構えられました。

その年のJCDAクラフト展に出品された友人の中井啓二郎氏の木のカバン(KIBAN 木鞆)製作に携わり、蝶番等の可動部を製作、その後は箱作りに魅せられて、現代の木工機械の中で特にルーターマシンが正確な加工に適していたので、多用してきたそうです

工房内部の様子は、道具などの配置や雰囲気は、工夫が見られ楽しいものです。また製作過程が分かるようにパーツや図面はもちろんまとめられています。加工時の苦労した内容のメモもキチンと添えられてありました。

カードケース製作工程は、包み隠さずに流れを説明しつつ、加工のポイントや効率改善方法まで丁寧にお話頂きました。加工時の動画も途中入っていて、また写真の豊富さは凄すぎました。なるほど海外の学生さんでもこれなら食い入るように見られます。サービス精神満載の内容の濃い講習会だと思いました。

良いデザインとは、というテーマでは、「上手なデザイン」+「何か新しい発見がある、意図しない驚きがあるデザイン」と言われた後に、生き方に当てはめると、上手な生き方と良い生き方との説明に、私は子供の時の、何か新しい発見をした時の様な嬉しさを感じました。

アイデアを形にするためには、How(技術、製作)を学べば What(イメージ、企画)を生み出すことが出来るようになるか？と問いつつ、アイデアは生み出す「工程」が必要、時には熟成期間後に、フツと出てくるそうですが、Why(なぜ)が何よりも大事であるとまとめられていましたが、作り手の永遠のテーマかもしれません。

〇〇〇〇ノススメでは、「日記を付けることノススメ」を提唱され、未来は現在から作っていくから、将来の自分へのメッセージになるし、習慣化出来ると良い、「外国語学習ノススメ」は外国語を学ぶと日本語の理解が深まり、ものに「思い」を込められるのではないか。「ボリュームをこなす事ノススメ」、「一日一案ノススメ」ととても実践的なお話でスライドショーは終了しました。

作品と治具のお披露目では、参加者がそれぞれ気になる作品やパーツを手に取り、いろいろな質問をして丹野さんに答えてもらいながら、製作の工夫や裏話などをしてもらい、その後に実際の加工に進みました。

テーブルルーター加工は、実際の治具をいくつか使用して、使い方のポイントを説明してもらい、参加者にも体験してもらい講習会は終了しました。

ゲスト: 須田賢司氏の作品披露

この度、重要無形文化財保持者として人間国宝となられた須田賢司氏が、丹野さんの話を聞きに参加されましたので、谷さんの要望により、御厚意で作品をお持ち頂きました。

何重にもなる箱から取り出した桐箱から葡萄唐草紋の織物につつまれて取りだした作品は、大変手の込んだ工芸品であり、箱という木工世界でありながらも、丹野氏とは方向性の違う物であります。ただ作品に対しての思いやりや、製作への姿勢はとても近いように感じられました。細部の象嵌や蝶番などは素材の違う物をどのように見せて加工するのかをとっても楽しそうに、また詳しくお話頂けた事は、丹野さん、谷さんの掛合いで盛り上がった事もあり、須田さんの「日本人は箱好き」という一言が出た時は、今回のサブテーマのように思いました。

この数時間のうちに、木工のトップを行かれるお二人の話される内容と、しなやかな物腰に感動しつつ、あっという間に時間が過ぎました。

最後に、今回の講習会を個人的にビデオ撮影させて頂き、のちに関係者に DVD にしてお送りしましたら、谷さんから、貴重な機械だったので関係者に許可をもらって配布してはと、お話を頂きました。谷さんの所で焼き増しを実費にて購入可能となりましたので、撮影は素人ですが内容は一流ですので、当日参加出来なかった方は、よろしければどうぞご覧ください。

丹野さん(左)と谷さん(右)

スライド



会場の様子



加工の様子



須田さん作品披露

